

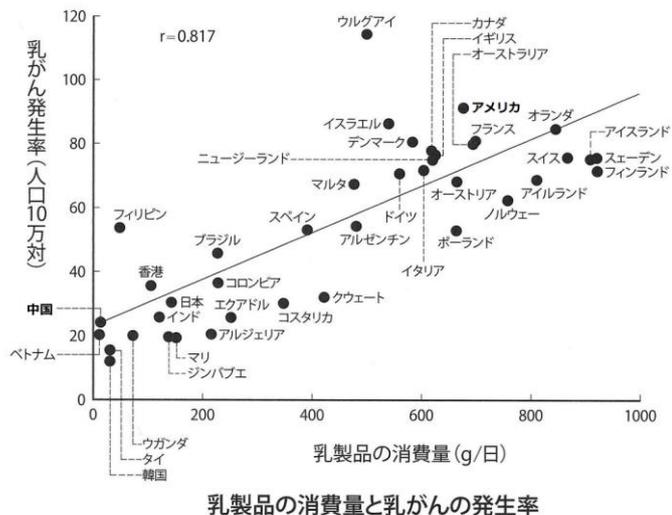
食の問題 (2) 『Your Life in Your hands』、J. プラント (英) 2000

『乳がんと牛乳、がん細胞はなぜ消えたのか』佐藤章夫訳、径書房、2008

女性地球化学者 (英) J. プラント教授は、自身の乳がんに7年間全精力を傾けて、なぜがんになったかを調べ上げた。その結論が、**乳がんの根本的原因は乳・乳製品にある**という事でした。当時、正統派医師や患者団体、栄養関係者から非難の嵐が巻き起こった。しかし、5年後にはその功績に対し英国王立医学協会の終身会員に推挙されています。

1987 (42歳) の時にホテルで左乳に豆大の硬いしこりに気付くのです。そして、乳房全切除と3回の手術、放射線・化学療法と壮烈な治療を経験します。

‘70年代に中国の周恩来首相はがんに罹っていて、中国全土のガン分布図を作成しました。博士は、これを眺めて‘中国全域を通して**乳がん**が驚くほど少ない’ことを知る。欧米の乳がん発生率が千人に1人であるのに対し中国では5千人に1人という低さです。



’83よりチャイナ・スタディが中国・米国大学の共同研究で行われた。そこでは、脂肪摂取率が欧米は36%に対し中国は14%と少ない。そこで、‘中国人は**乳製品**を食べない’ことに気がついたのです。博士は、もともと牛乳やチーズ・ヨーグルの愛好家であり、ひき肉 (乳肉) のハンバーグもよく食べていました。このヨーグルト (牛乳の分解産物であるガラクトース) が卵巣がんの原因という論文に出会うのです。

55歳 (2000年) のときに乳製品を完全に絶ちました。すると1週間で頸のしこりが痒くなりその硬さが減ってきて、6週間で完全に消失したのです！

牛乳にはミネラルやビタミンのみならずホルモンを高濃度に含んでいる。ステロイドホルモン、成長ホルモン、インスリン等々などです。さらに、インスリン様成長因子 (IGF-1)、神経成長因子、上皮増殖因子など細胞を分裂・増殖させる物質を含んでいるのです。

子ウシは**体重** 日に1kg増えるのです！一方、ヒトの赤ちゃんは1kg増えるのに1ヶ月かかります。ガンが1kgに成るのに10年かかるのです。ヒトにとって牛乳はホルモン系の**がん細胞**を増殖しかねない物質を含んでいるのです。特に、**インスリン様成長因子 (IGF-1)** は正常のヒトに分泌されていますが、その働きは乳児期と思春期、さらに成人のガンに発揮される特徴があるからです。

牛乳は、子ウシの細胞分裂を刺激するようにのみデザインされた物質であるという、この一点を忘れてはならないのです。

牛乳は、子ウシの細胞分裂を刺激するようにのみデザインされた物質であるという、この一点を忘れてはならないのです。